

<金標準、国債増発に伴う金利上昇で押され再度 8700 円へ・・・>



(出所：オアシス)

米国財務省は、債務残高の拡張と市場金利の上昇に伴う支払い費用の負担増から 3 年債、10 年債、30 年債の国債増額を 2 年ぶりに行うと発表している。そのため米国 10 年債金利は 2022 年 7 月 11 日以来の 4.16% を超える上昇を見せている。また大手格付け会社フィッチが米国債の格付けを最上級「AAA」から「AA+」へ引き下げを発表するなど、金利上昇を後押ししている。特に日銀金融政策決定会合を終え、市場は日銀の金利容認を試す試みを見せ、9 年ぶりに 10 年債金利が 0.612% を付けるなど、日米で金利が上昇を見せている。そのため金利を生まない金は妙味が薄れ、日米で金価格は軟調な動きを見せている。金標準先物は、円安効果もあり一時 9000 円を超えるなど高値を試したが、金利上昇に伴うドル高や格下げの逃避の円高に押されており、今週の米国債入札の状況如何では 8700 円を試す可能性は高まると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は MACD が下がり、シグナルを下回る動きを見せ、RCI でも短期が下げながら長期を下回り長期も軟調な動きを見せるなど、オシレーター系の弱さを見せている。特に日足が 10 日移動平均線を下回りながら 40 日移動平均線を試す動きを見せており、軟調な展開になる可能性は高まっていると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,235,000 円(2023 年 8 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 8 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>